

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	帝京大学短期大学
設置者名	学校法人 帝京大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	人間文化学科	夜・通信		4	4	8	7	
	現代ビジネス学科	夜・通信			4	8	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>ホームページにより、公表している。</p> <p>人間文化学科  <a href="https://www.teikyo-u.ac.jp/application/files/3215/8355/6214/facultyclasslist_2019_01.pdf">https://www.teikyo-u.ac.jp/application/files/3215/8355/6214/facultyclasslist_2019_01.pdf</a></p> <p>現代ビジネス学科  <a href="https://www.teikyo-u.ac.jp/application/files/7715/8355/6269/facultyclasslist_2019_02.pdf">https://www.teikyo-u.ac.jp/application/files/7715/8355/6269/facultyclasslist_2019_02.pdf</a></p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	帝京大学短期大学
設置者名	学校法人 帝京大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

・授業計画書(シラバス)の作成過程

授業を担当する教員にはシラバス作成のガイドラインを配布しており、予めシラバス作成の手順について周知している。次年度の担当科目が決定次第、教員はガイドラインに従いシラバスの原稿を作成し、教務担当事務へ提出。記載内容について第3者(担当教員及び事務部)のチェックを受け、必要に応じて加筆修正を行い、完成する。

・主な記載内容

- ① 授業の概要…授業の全体を把握できるようにするとともに、授業の趣旨、学びの方向性を記載する。学生が、学ぶ意義を理解し、学修への動機づけを高めることを目指す。
- ② 授業の到達目標…当該科目が、各学科がディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果のうちどの部分を担っているかに留意し、「〇〇できる」等の表現にて示す。また、到達度を成績評価に結びつけられるよう、観察可能な具体的内容を記載し、学生にわかり易いように一つの文章に対し一つの到達目標とする。
- ③ 成績評価の方法および基準…単位認定の判断材料となるレポート課題、小テスト、試験等の評価の割合を%で明記する。出席点は含めない。評価にあたり、到達目標に掲げる能力の達成度を判定できる評価方法となっているかに留意する。また、評価基準は測定可能なものとし、採点根拠が明確となるようにする。なお、成績評価の基準は、全ての科目において同一にS・A・B・C・Dで表し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とするため、授業科目ごとのシラバスには掲載していない。
- ④ 各回の授業内容(年間の授業の計画)…学生の予習等の参考となるように、各回の具体的な授業内容を記載する。
- ⑤ 教科書・参考書…授業で使用し、学生が購入することが必要なもののみ記載。
- ⑥ 準備学修の内容…学生の主体的な学修を促すため、予習・復習について具体的な指示を記載する。
- ⑦ その他履修上の注意事項…学生が授業に臨む態度、学生の責任について記載。また、当該科目履修の前提となる科目や、今後履修すべき科目について記載。

・授業計画書の作成・公表時期

前年度の12月ごろより、各教員に原稿の作成を依頼し、上記の作成過程を経て、3月末までにホームページ上に公表し、予め学生に対して周知する。

<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>ホームページにより、公表している。  人間文化学科  <a href="https://www.e-campus.gr.jp/syllabus/kanri/hachioji/public/syllabus/2020/search?utf8=%13&amp;q_others%5Bdiscipline_id%5D=20&amp;q_others%5Bmajors_id%5D=&amp;q%5Bfamily_id_eq%5D=&amp;q_others%5Bgrade_id%5D=&amp;q%5Bchoice_type_id_eq%5D=&amp;q%5Bsemester_id_eq%5D=&amp;q%5Bkeyword_key_cont_all%5D=&amp;q%5Bsubject_name_cont%5D=&amp;q%5Bteachers_name_cont%5D=&amp;commit=%E7%B5%9E%E3%82%8A%E8%BE%BC%E3%81%BF">https://www.e-campus.gr.jp/syllabus/kanri/hachioji/public/syllabus/2020/search?utf8=%13&amp;q_others%5Bdiscipline_id%5D=20&amp;q_others%5Bmajors_id%5D=&amp;q%5Bfamily_id_eq%5D=&amp;q_others%5Bgrade_id%5D=&amp;q%5Bchoice_type_id_eq%5D=&amp;q%5Bsemester_id_eq%5D=&amp;q%5Bkeyword_key_cont_all%5D=&amp;q%5Bsubject_name_cont%5D=&amp;q%5Bteachers_name_cont%5D=&amp;commit=%E7%B5%9E%E3%82%8A%E8%BE%BC%E3%81%BF</a>  現代ビジネス学科  <a href="https://www.e-campus.gr.jp/syllabus/kanri/hachioji/public/syllabus/2020/search?utf8=%13&amp;q_others%5Bdiscipline_id%5D=21&amp;q_others%5Bmajors_id%5D=&amp;q%5Bfamily_id_eq%5D=&amp;q_others%5Bgrade_id%5D=&amp;q%5Bchoice_type_id_eq%5D=&amp;q%5Bsemester_id_eq%5D=&amp;q%5Bkeyword_key_cont_all%5D=&amp;q%5Bsubject_name_cont%5D=&amp;q%5Bteachers_name_cont%5D=&amp;commit=%E7%B5%9E%E3%82%8A%E8%BE%BC%E3%81%BF">https://www.e-campus.gr.jp/syllabus/kanri/hachioji/public/syllabus/2020/search?utf8=%13&amp;q_others%5Bdiscipline_id%5D=21&amp;q_others%5Bmajors_id%5D=&amp;q%5Bfamily_id_eq%5D=&amp;q_others%5Bgrade_id%5D=&amp;q%5Bchoice_type_id_eq%5D=&amp;q%5Bsemester_id_eq%5D=&amp;q%5Bkeyword_key_cont_all%5D=&amp;q%5Bsubject_name_cont%5D=&amp;q%5Bteachers_name_cont%5D=&amp;commit=%E7%B5%9E%E3%82%8A%E8%BE%BC%E3%81%BF</a></p>
	<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>
	<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各授業科目の授業計画書（シラバス）への記載等において、学生に対し予め周知された成績評価の方法（筆記試験、実技試験、レポート課題、小テスト等）および基準（S・A・B・Cは合格、Dは不合格）により、厳格かつ適正に学修成果を評価し、合格者に対し単位の授与を実施している。</li> </ul>

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- ・学修の成果を客観的な数値で評価する成績評価制度として、GPA 制度を導入している。
- ・客観的な指標の内容

区分	評価	GPA	成績評価基準	評価内容
合格	S	4.0	90 点以上	特に優れた成績
	A	3.0	80 点台	優れた成績
	B	2.0	70 点台	妥当と認められる成績
	C	1.0	60 点台	合格と認められる最低限の成績
不合格	D	0.0	60 点未満	合格と認められる最低限の成績に達していない（授業への出席日数不足及び試験の未受験等を含む）

- ・GPA の算出方法

$$\frac{4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}}{\text{卒業単位数における総履修登録単位数 (D の単位を含む)}}$$

- ・予め設定した上記の算出方法をホームページ等により学生に周知し、各学生の履修科目の成績に基づき算出している。

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

ホームページにより、公表している。

人間文化学科

[https://www.teikyou.ac.jp/faculties/junior\\_college/culture#2](https://www.teikyou.ac.jp/faculties/junior_college/culture#2)

現代ビジネス学科

[https://www.teikyou.ac.jp/faculties/junior\\_college/business#2](https://www.teikyou.ac.jp/faculties/junior_college/business#2)

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>・本学の卒業の認定に関する方針は、各学科が教育活動の成果として学生に保証する最低限の基本的な資質を記載したものと捉え、各学科で定めた教育目的に則し、養成すべき人材像を記載するとともに、学生の立場から行動目標を定義し、簡素な文章で箇条書きしている。この記載により、学科が保証する最低限の学修成果を明確にしている。また、各学科の卒業の認定に関する方針は、ホームページ上において公表している。          なお、各学科における卒業の認定に関する方針に基づき、筆記試験、実技試験、レポート課題、小テスト等の適切な方法により学生の学修成果を評価し、卒業に必要な習得単位数を満たした者について、卒業認定を適切に実施している。</p>	
<p>卒業の認定に関する          方針の公表方法</p>	<p>ホームページにより、公表している。  <a href="https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior_college/policy">https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior_college/policy</a></p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	帝京大学短期大学
設置者名	学校法人 帝京大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.teikyou.ac.jp/university/finance/finance/">https://www.teikyou.ac.jp/university/finance/finance/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.teikyou.ac.jp/university/finance/finance/">https://www.teikyou.ac.jp/university/finance/finance/</a>
財産目録	<a href="https://www.teikyou.ac.jp/university/finance/finance/">https://www.teikyou.ac.jp/university/finance/finance/</a>
事業報告書	<a href="https://www.teikyou.ac.jp/university/finance/finance/">https://www.teikyou.ac.jp/university/finance/finance/</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.teikyou.ac.jp/university/finance/finance/">https://www.teikyou.ac.jp/university/finance/finance/</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページにて公表している。 <a href="https://www.teikyo-u.ac.jp/university/certification#evaluation02">https://www.teikyo-u.ac.jp/university/certification#evaluation02</a>
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページにて公表している。 <a href="https://www.teikyo-u.ac.jp/university/certification#evaluation01">https://www.teikyo-u.ac.jp/university/certification#evaluation01</a>
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人間文化学科
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。 <a href="https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior_college/policy">https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior_college/policy</a> ）
（概要）  人間文化学科は、建学の精神に則り、グローバルな視野を持ち、異文化を理解するための知識と技能を身につけるとともに、自国の文化への理解を深め、その伝統を継承し、また、豊かな人間関係を築いて、自己実現を目指し、幅広く社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 <a href="https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior_college/policy">https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior_college/policy</a> ）
（概要）  人間文化学科は、グローバル化した現代社会で活躍できる能力と幅広い教養を備えること、書道を通じて自国の文化に対する関心と知識を深め、伝統文化を継承・発展させる意欲を育てること、また、人間社会や心理に対する理解力を基礎として、豊かな人間関係を築くこと、さらに、自ら主体的に就職や進学に向けて目標を定めて自己実現を図り、社会に貢献すること、こうしたことができる人材の養成を目指している。そこで、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与するものとする。 1. グローバル化した現代社会で必要となる英語力の基礎と、グローバルな視野と異文化への理解力を身につけている。 2. 日本の伝統文化に対する幅広い知識を有するとともに、書道を通じてその継承に寄与することができる。 3. 人間社会や心理に関する研究の基本を学び、それをもとにして集団のなかにおいて他者に対する共感や理解を示すことができる。 4. 主体的に学び、自らの目標を定めて、それに取り組み、公共社会に貢献できる。また、自己の成果を集団の場で発表することができ、そのために必要な情報処理の基本的な技能を備えている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 <a href="https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior_college/policy">https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior_college/policy</a> ）
（概要）  学位授与に要求される能力を修得するために、人間文化学科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。 1. 【リテラシー基礎科目群】その重要性に鑑み、主に必修科目として配当する。『英語（1～2 年次必修）』および『英語コミュニケーション（1 年次必修）』で英語力の基礎を身につけ、『ライフデザイン演習（1 年次必修）』『基礎演習（2 年次必修）』により、自らの目標を定めて主体的に学ぶ力を身につける。また、現代社会で必要とされる情報処理の基本的な技能を身につけるために『情報処理演習（1 年次必修）』を配置する。 2. 【異文化理解・コミュニケーション科目群】グローバルな視野と異文化への理解力を身につけるため、『異文化コミュニケーション（1 年次選択必修）』および英米・アジアの各国文化論を配置する。また、『英語コミュニケーション』や『演劇とコミュニケーション』など、実践的な体験を通してコミュニケーション力を高めるための科目を配置する。 3. 【書道・芸術科目群】書道を通じて日本の伝統文化の継承に寄与するため、『書道文化概論（1 年次選択必修）』および書道の『実技』『歴史』等幅広く配置する。また、帝京大学文学部日本文化学科への編入に配慮した設定とする。さらに、幅広い教養を身につけ、

公共社会に貢献することを目指し『芸術と社会貢献（1年次選択必修）』を配置する。

4.【心理科目群】人間社会や心理に関する研究の基本を学ぶため『心理学研究の実践（1年次選択必修）』を始めとし、他者に対する共感や理解に到達するための科目を幅広く配置する。また、帝京大学文学部心理学科および教育学部への編入に配慮した設定とする。

5.【キャリア教育科目群】短大卒業時に進学ではなく就職を希望する学生が、自らの目標を定めてそれに取り組む態度を早期に身につけられるよう、『職業選択』等、自己適性を把握するための科目を配置する。また、就職活動に直結する実践的な『SPI対策』も配置する。

6.【スポーツ科目群】公共社会に貢献できる一つの進路として、スポーツ指導者になるために修得すべき科目を体系的に配置する。〈現代ビジネス学科と共通〉

7.【ecoビジネス科目群】公共社会に貢献できる一つの進路として、ecoビジネスリーダーになるために修得すべき科目を体系的に配置する。〈現代ビジネス学科と共通〉

8.【教員免許系科目群】中学校教諭二種（英語）教員免許を取得するために必要な科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。  
[https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior\\_college/policy](https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior_college/policy)）

（概要）

本学は、建学の精神に則り、実社会で必要な教養、知識、技術や態度を修得し、さらにそれらを活用することにより、社会における自分の存在価値を築き、社会公共に貢献できる人材の育成を目指しています。

そのためには、広い視野と知識、ならびに積極的に学ぼうとする意欲や態度が求められます。したがって、高等学校等において基本とされる教科を、幅広く意欲的に勉強することが極めて大事になります。

高等学校等における上記のような学修を通じて、次のような能力・資質を備えた入学者を求めています。

1. 基本的な学力を身につけ、真剣に知識や技術を学ぼうとする意欲を持って入学後の修学においてその学力を生かすことができる。
2. 進学や就職、留学などの目標を立て、その実現に向けて主体的に努力することができる。
3. 偏見なく物事に向き合い、さまざまな事柄に広く関心を持ち、また、他者に積極的にかかわるとともに、思いやりを持って相手を理解しようとすることができる。

学部等名 現代ビジネス学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。  
[https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior\\_college/policy](https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior_college/policy)）

（概要）

現代ビジネス学科は、建学の精神に則り、ビジネス社会の総合的な理解とビジネス社会で必要とされる理論的、実践的知識および技能を涵養し、ビジネス社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。  
[https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior\\_college/policy](https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior_college/policy)）

（概要）

現代ビジネス学科は、現代のビジネス社会の性質と機能を探究し、この社会で活躍できる人物を養成する。また、ビジネスという経済活動を包み込む幅広い文化的要素について学び、教養と品性を兼備した人物を養成する。そして、内外の情勢に偏見なく視野を開き、物事の本質や成り行きを見通すことのできる人物を養成する。さらに、知的好奇心を常に触発して自己啓発に努め、思いやり深く、就職先や進学先で敬愛される人物を養成する。

そこで、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 現代のビジネス社会を正しく捉え、文書作成能力を身につけ、ビジネスの現場で必要な英語力の基礎的知識を有するとともに、それらを活用することができる。
2. ビジネスに関わる諸要素を有機的に学び、実際のビジネス活動や社会生活を円滑にすべく、学外活動などを通じて基礎的なビジネスマナーを身につけている。
3. 基礎科目のみならず専門性を有する科目を総合的に受講し、人間や社会の本質的理解を目指し、ビジネス社会における諸問題を見出していくことができる。
4. 「自分流」を体得し、主体性と進取の精神を身につけ自由闊達にして責任ある言行を常とし、現代のビジネス社会で主体的に行動ができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。[https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior\\_college/policy](https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior_college/policy)）

（概要）

学位授与に要求される能力を修得するために、現代ビジネス学科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 【リテラシー基礎科目群】必修科目として、ライフデザイン演習（1年次）、基礎演習（2年次）、ビジネス英語（1・2年次）を配置し少人数教育を行う。さらに、就職や経済学部等への編入の際に不可欠な時事問題への関心・理解を深めるための「時事問題演習（1・2年次必修）」や文書表現能力を向上させるための「文書表現演習（1・2年次必修）」を配置する。演習科目では、文章表現・プレゼンテーション・コミュニケーションの各能力に重点を置き、あわせて問題発見・解決能力を養成する。英語科目では実用的なビジネス英語の運用力を修得する。

2. 【現代ビジネス理解関連科目群】複雑・多様化するビジネス社会で必要とされる知識と技能を身につけるために、「オフィスマネジメント」「ビジネス実務演習」などの科目を配置する。また、ビジネスの最前線を知り、社会的存在としてビジネスを理解するために、「ファッションビジネス論」「ソーシャルビジネス論」「ホスピタリティ演習」などの科目を多く開講する。

3. 【経済学・経営学・観光学関連科目群】経済学・経営学・観光学の基礎的理論を修得することに重点が置かれる。その上で、これらが現在直面する複雑な課題について思考する能力を養成する。また、帝京大学経済学部への編入に配慮した設定とする。

4. 【キャリア教育科目群】就職を希望する学生が、早期に目標を定め、就職活動に取り組めるよう、「職種選択」「キャリアデザインと職業選択」などの科目を配置する。また、就職活動に直結する実践的な「社会人基礎力養成演習」「SPI」を開講する。さらに、就職希望者のみならず、編入学希望者にとっても重要である情報処理能力を定着・発展させるために表計算などの「情報リテラシー」科目やプログラミングなどの「情報処理」科目を複数配置する。

5. 【eco ビジネス科目群】日本と世界が抱える環境問題や日本が有する高度な環境技術について、正しい知識を持ち、日本の環境ビジネスをリードする人材として、eco ビジネスリーダーを養成するために必要な科目を体系的に配置する。（人間文化学科と共通）

6. 【スポーツ科目群】公共社会に貢献できる一つの進路として、スポーツ指導者になるために修得すべき科目を体系的に配置する。（人間文化学科と共通）

7. 【教員免許系科目群】中学校教諭二種（社会）教員免許を取得するために必要な科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。  
[https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior\\_college/policy](https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior_college/policy)）

（概要）

本学は、建学の精神に則り、実社会で必要な教養、知識、技術や態度を修得し、さらにそれらを活用することにより、社会における自分の存在価値を築き、社会公共に貢献できる人材の育成を目指しています。

そのためには、広い視野と知識、ならびに積極的に学ぼうとする意欲や態度が求められます。したがって、高等学校等において基本とされる教科を、幅広く意欲的に勉強することが極めて大事になります。

高等学校等における上記のような学修を通じて、次のような能力・資質を備えた入学者を求めています。

1. 基本的な学力を身につけ、真剣に知識や技術を学ぼうとする意欲を持って入学後の修学においてその学力を生かすことができる。

2. 進学や就職、留学などの目標を立て、その実現に向けて主体的に努力することができる。

3. 偏見なく物事に向き合い、さまざまな事柄に広く関心を持ち、また、他者に積極的にかかわるとともに、思いやりを持って相手を理解しようとするすることができる。

## ②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページにて公表している。

[https://www.teikyo-u.ac.jp/university/basic\\_info/administration#1](https://www.teikyo-u.ac.jp/university/basic_info/administration#1)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	0人	—					0人
人間文化学科	—	2人	3人	3人	0人	0人	8人
現代ビジネス学科	—	4人	3人	0人	0人	0人	7人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		10人					11人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：ホームページにて公表している。 <a href="https://www.e-campus.gr.jp/staffinfo/public/">https://www.e-campus.gr.jp/staffinfo/public/</a>					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間文化学科	50人	28人	56.0%	100人	71人	71.0%	人	人
現代ビジネス 学科	50人	32人	64.0%	100人	79人	79.0%	人	人
合計	100人	60人	60.0%	200人	150人	75.0%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人間文化学科	41人 (100%)	20人 (48.8%)	14人 (34.1%)	7人 (17.1%)
現代ビジネス 学科	48人 (100%)	28人 (58.3%)	12人 (25.0%)	8人 (16.7%)
合計	89人 (100%)	48人 (53.9%)	26人 (29.2%)	15人 (16.9%)
(主な進学先・就職先)（任意記載事項）				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

### ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>・ 授業計画書（シラバス）の作成過程 授業を担当する教員にはシラバス作成のガイドラインを配布しており、予めシラバス作成の手順について周知している。次年度の担当科目が決定次第、教員はガイドラインに従いシラバスの原稿を作成し、教務担当事務へ提出。記載内容について第 3 者（担当教員及び事務部）のチェックを受け、必要に応じて加筆修正を行い、完成する。</p> <p>・ 主な記載内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業の概要…授業の全体を把握できるようにするとともに、授業の趣旨、学びの方向性を記載する。学生が、学ぶ意義を理解し、学修への動機づけを高めることを目指す。</li> <li>② 授業の到達目標…当該科目が、各学科がディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果のうちどの部分を担っているかに留意し、「○○できる」等の表現にて示す。また、到達度を成績評価に結びつけられるよう、観察可能な具体的内容を記載し、学生にわかり易いように一つの文章に対し一つの到達目標とする。</li> <li>③ 成績評価の方法および基準…単位認定の判断材料となるレポート課題、小テスト、試験等の評価の割合を%で明記する。出席点は含めない。評価にあたり、到達目標に掲げる能力の達成度を判定できる評価方法となっているかに留意する。また、評価基準は測定可能なものとし、採点根拠が明確となるようにする。なお、成績評価の基準は、全ての科目において同一に S・A・B・C・D で表し、S・A・B・C を合格、D を不合格とするため、授業科目ごとのシラバスには掲載していない。</li> <li>④ 各回の授業内容（年間の授業の計画）…学生の予習等の参考となるように、各回の具体的な授業内容を記載する。</li> <li>⑤ 教科書・参考書…授業で使用し、学生が購入することが必要なもののみ記載。</li> <li>⑥ 準備学修の内容…学生の主体的な学修を促すため、予習・復習について具体的な指示を記載する。</li> <li>⑦ その他履修上の注意事項…学生が授業に臨む態度、学生の責任について記載。また、当該科目履修の前提となる科目や、今後履修すべき科目について記載。</li> </ol>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
各授業科目の授業計画書（シラバス）への記載等において、学生に対し予め周知された成績評価の方法（筆記試験、実技試験、レポート課題、小テスト等）および基準（S・A・B・Cは合格、Dは不合格）により、厳格かつ適正に学修成果を評価し、合格者に対し単位の授与を実施している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	人間文化学科	62 単位	有・無	単位
	現代ビジネス学科	62 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法： ホームページにて公表している。 <a href="https://www.teikyo-u.ac.jp/campus/hachioji_campus">https://www.teikyo-u.ac.jp/campus/hachioji_campus</a> 及び <a href="https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior_college/environment">https://www.teikyo-u.ac.jp/faculties/junior_college/environment</a></p>
---

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	人間文化 1年	760,000円	250,000円	216,430円	
	人間文化 2年	760,000円		199,000円	
	現代ビジ ネス 1年	760,000円	250,000円	216,430円	
	現代ビジ ネス 2年	760,000円		199,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要)  帝京大学の八王子キャンパスに併設している本学は、学生の主体的学びを支援し、グループ学習等の多様な学修スタイルに対応するラーニング・コモンズや、授業内容及び学修の方法などの相談を受ける学修支援デスクの設置など、大学と共用の学内の施設を十分に活かした学修支援の取り組みが行われている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要)  在学生および卒業生に対し開設している「キャリアサポートセンター」が、面談、セミナー、ガイダンスといった様々なイベントを開催し、就職活動をサポートしている。また、民間企業や地域と提携した、無料の就職支援も行っている。 将来なりたい自分になれるように、さまざまな形で支援を行うことで、学生のうちから自らの資質に目を向け、将来へのビジョンが明確となるよう、進路選択の支援に取り組んでいる。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要)  学生生活、心身の健康、人間関係といったあらゆる悩みや相談に応じる体制を整えている。心の悩みについての相談は個室面談室を設けるなど、プライバシーに配慮した対応がなされている。 また、保健室における応急処置はもちろんのこと、学生に対し定期健康診断を実施するなど、健やかな学生生活が送れるように、健康管理を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： ホームページにて公表 <a href="https://www.teikyo-u.ac.jp/disclosure">https://www.teikyo-u.ac.jp/disclosure</a>
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	帝京大学短期大学
設置者名	学校法人 帝京大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		11人	2人	13人
内 訳	第Ⅰ区分	7人	0人	
	第Ⅱ区分	1人	1人	
	第Ⅲ区分	3人	1人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				13人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	1人	0人	1人
計	1人	0人	1人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）  
の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	1人
3月以上の停学	0人
年間計	1人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給  
付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより  
認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	5人	2人	3人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	5人	2人	3人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。